

# 六甲山塊の地質構造について

上 治 寅 次 郎

本稿は昭和29年5月15日夜、神戸市兵庫区六甲山頂で行なわれた第7回本会総会の時の上治先生の御講演の概要です。(文責、室井緯)

(1) 断層の確認 断層を確認することは地質構造の探究に重要であるが、六甲山塊の如く噴出岩を主とする所では確認が容易でない。

断層確認の方法は地形で予察し地質上の証跡を調査するのが1つの方法である。六甲山塊各地に於ては布引貯水池附近、丸山公園、住吉川附近、長田山、会下山、甲陽園一带などに模式的に断層の露出がある。

(2) 六甲断層の新旧 六甲山塊に於ける断層構造を生成の時期によつて①古期構造②衝上構造③新期構造とに分ける。この新旧の区別は便宜上衝上構造を中心とし、その前後によつて分けた。

(3) 古期構造 六甲山塊も水準面下にあつた時代がある。それは①六甲山上には準平原の遺跡と思われる平坦面が保存されていること、②更新世の砂礫層が再度山、花原、中畑その他処々にあることをもつても知られる。古期の断層構造は芦屋川弁天岩附近に於て見られるが新旧の構造の影響を受けて確認できぬ場合が多い。

(4) 衝上構造 六甲山塊を形成したる主要構造であつて六甲衝上断層、摩耶断層、布引断層、諏訪山断層、その他鴨子原断層、芦屋断層、甲陽断層などの断層群より成る。各断層間の標高は、およそつぎの通りである。

断層名	最高(m)	一般標高(m)
六甲衝上断層	932	600—900
摩耶断層	860	400—700
布引断層	450	250—350
芦屋断層	270	150—200

断層名	標高(m)	一般標高(m)
諏訪山断層	165	50—100
鴨子原断層	120	50—100
甲陽断層	100	20—70

層だと考へて居たが何れも急傾斜衝上断層と考へることが適當であると思へに至つた。紀伊菖蒲谷には結晶片岩が更新層上に衝上して居り、この点から考へると和泉山脉も衝上によつて生成された山脉ではないかと思ふ。

六甲山塊中、花崗岩上に種々の高度に大阪層群(更新世)の砂礫層の分布する事は衝上断層によつて容易に説明し得る。

六甲山塊中の主要大阪層群標高	
大阪層群露出地	標高(m)
打出	5
笹塚	50
長田山	90
三条山	120
劍谷	150
逆瀬川	170
申新田	180
五助橋	350
再度山	410
花原	470
中畑	520

(5) 新期構造 衝上構造の生成と同時に、または直後に生成せる断層構造で①住吉断層②都賀川断層③菊水山断層④多井畑断層⑤小部断層などは主要なもので何れも正断層である。

(6) 六甲山塊の形成 衝上断層群は更新世大阪層群の地層を断断しているから、その地層生成以後なるは明かである。すなわち六甲山塊の形成は第4紀更新世末期以後現世以前であつて現世に於てもその活動の一部は連続しつつあると考へられる。